



平成 30 年

# 第 1 回名寄市議会定例会行政報告

名 寄 市

---

---

平成 30 年度の予算編成	1
“市民と行政との協働によるまちづくり”	2
・人権尊重と男女共同参画社会の形成	2
・交流活動の推進	3
・広域行政の推進	4
“市民みんなが安心して健やかに暮らせるまちづくり”	6
・地域医療の充実	6
・子育て支援の推進	8
・高齢者施策の推進	8
“自然と調和した環境にやさしく快適で安全安心なまちづくり”	9
・消防	9
・防災対策の充実	10
・住宅の整備	11
・上水道の整備	12
・下水道・個別排水の整備	12
・道路の整備	13
・地域公共交通	14
“地域の特性を活かしたにぎわいと活力のあるまちづくり”	14
・農業・農村の振興	15
・森林保全と林業の振興	16
・商工業の振興	17
・雇用の安定	18
・観光の振興	19
“生きる力と豊かな文化を育むまちづくり”	20
・小中学校教育の充実	20
・大学教育の充実	23
・生涯学習社会の形成	25
・生涯スポーツの振興	27
・青少年の健全育成	29
・地域文化の継承と創造	31

---

---

本日、平成30年第1回定例会の開会にあたり、これまでの主な行政事項について、その概要をご報告申し上げます。

## **平成30年度の予算編成**

平成30年度の予算編成について申し上げます。

本市の平成30年度各会計予算は、骨格予算となりますが、名寄市総合計画（第2次）の将来像の実現に向けて、継続事業を中心とした様々な事業を盛り込んだ予算を編成しました。

主な事業について、ハード事業では北斗・新北斗公営住宅建設事業、風連中央小学校校舎・屋内運動場等改築事業などを、また、ソフト事業では保育士等奨学金返還支援助成金などの待機児童解消緊急対策事業や、これからのまちづくりの方針を示す名寄市都市計画マスタープラン見直し及び立地適正化計画策定委託業務などを盛り込みました。

これにより、一般会計の予算案は、前年度比4.4パーセント減の21億6,612万4千円となりました。なお、参考として、平成30年度より特別会計となる名寄市立大学特別会計を、今まで同様、一般会計で計上した場合の予算規模は、218億2,553万6,000円、前年度比1.5%減となっております。

また、名寄市立大学特別会計を含む7つの特別会計予算案は98億5,593万2千円、企業会計予算案は131億6,632万3千円、全会計の総額で

は441億8,837万9千円となりました。

財源調整として、財政調整基金で7億4,875万5千円の取崩しを、また、老朽化した公共施設設備の更新などに係る事業の財源として、公共施設整備基金で4億円を取崩しましたが、今後の起債償還に備え、減債基金の積立を行い、将来の財政健全化を視野に入れた予算を編成しました。

今後も、行財政改革に取り組むとともに、財政規律を遵守し、健全な財政運営に努めてまいります。

## “市民と行政との協働によるまちづくり”

### 人権尊重と男女共同参画社会の形成

次に、男女共同参画社会の形成について申し上げます。

第2次名寄市男女共同参画推進計画に基づき、本年度新たな事業として、名寄市男女共同参画推進事業者等表彰を実施しました。男女共同参画の推進に理解と意欲があり、仕事と家庭の両立に配慮しながら、男女がともに働きやすく子育てしやすい職場環境づくりに積極的に取り組んでいる2事業所に対し、表彰状を贈呈しました。表彰式はなよろ雪質日本一フェスティバル会場で行い、広く市民に周知することができました。

また、テレビやラジオで活躍中のお笑いコンビ「オクラホマ」の

かわのしんや  
河野真也さんをお招きし、男女共同参画セミナーを開催しました。

「仕事・家事・育児に追われてイラっとしたら笑えるチャンス～夫婦喧嘩を7割減らします～」をテーマにお話しいただき、会場内では終始笑いが絶えず、相手を思いやる気持ちの大切さについてご講演いただきました。

今後も市民に喜んでいただける事業を実施し、男女共同参画の普及と推進を図ってまいります。

### **交流活動の推進**

次に、交流活動の推進について申し上げます。

東京都杉並区との交流については、2月11日から2日間、杉並区から代表団6人が本市を訪れ、「なよろ雪質日本一フェスティバル」と翌週に開催された「ふうれん冬まつり」のそれぞれの雪像コンクールに区長賞及び区議会議長賞を提供いただきました。

ふるさと会との交流については、旭川風連会の総会が2月4日に、さっぽろ名寄会の総会が2月17日にそれぞれ開催され、会員相互の親睦を深めつつ各種事業に取り組むことが確認されました。

また、東京なよろ会スキーツアーでは、5コースに約140人が参加される予定で、訪れていただいた皆様には、日本一の雪質やなよろ市立天文台「きたすばる」での星空観察、スノーシュー体験など、本市の魅力を堪能いただきました。

台湾との交流については、交流自治体中学生親善野球大会が台北市で開催され、本市から中学生 16 人が参加し、悪天候により訪台が 1 日遅れたものの、12 月 27 日から 4 日間、台湾の中学生などと交流を深めてきました。

また、1 月 19 日から 8 日間、台北市立中山国民中学ちゅうざんの中学生ら 17 人が本市を訪れ、バドミントンの合宿や名寄中学校の生徒との交流を行ったほか、スキー体験や観光などを通じて、本市の冬の魅力を楽しんでいただきました。

次に、移住の推進について申し上げます。

首都圏でのプロモーション活動として 1 月 21 日に東京ビックサイトで「JOIN 移住・交流&地域おこしフェア」が開催されました。日本全国から 455 団体の出展があり、名寄市移住促進協議会も出展し、移住希望者の個別相談に応じてきています。

## **広域行政の推進**

次に、広域行政の推進について申し上げます。

天塩川周辺 11 市町村で構成する「テッシ・オ・ペツ賑わい創出協議会」主催による「天塩川フォーラム」が 2 月 4 日に士別市民文化センターで開催され、関係者や地域住民約 130 人に来場いただきました。

た。第 1 部では歴史小説作家の河治和香<sup>かわじわか</sup>さんに幕末の探検家「松浦武四郎ってどんな人」と題して、北海道の名付け親である松浦武四郎の知られざる横顔についてご講演をいただき、武四郎に関する認識を深めました。第 2 部では天塩川に関係の深い 4 人のパネリストにより、天塩川に関するこれまでの取組や今後の可能性について討議を行ないました。

今後は「テッシン・オ・ペツ賑わい創出協議会」の各地域において北海道命名 150 年にあたる本年の事業に向け準備を進めてまいります。

次に、定住自立圏について申し上げます。

2 月 15 日には定住自立圏共生ビジョン懇談会を本市で開催し、圏域内各市町村の市民委員の皆様から、取組の実施状況についてご意見をいただきました。

また、ヤマト運輸株式会社様から、本市との連携協定の取組を紹介いただくとともに、道北地域における物流の現状と課題についてご講演いただきました。

今後とも、圏域全体としての必要な生活機能の確保、定住の受け皿形成のため、定住自立圏共生ビジョンの着実な推進を図ってまいります。

## “市民みんなが安心して健やかに暮らせるまちづくり”

### 地域医療の充実

次に、病院事業について申し上げます。

市立総合病院の昨年4月から12月までにおける、患者取扱い状況については、入院患者数が延べ7万6,568人で前年比197人、0.3パーセントの減少となっています。また、外来の取扱い患者数は、16万9,126人で前年比2,147人、1.3パーセントの減少となっています。

入院収益については43億8,250万円で前年比1億6,182万円、3.8パーセントの増加となっています。また、外来収益は16億8,105万円で前年比379万円、0.2パーセントの増加となっています。この結果、収益の合計額は、60億6,355万円となり、前年比1億6,561万円、2.8パーセントの増加となっています。

次に、平成30年度の診療体制について申し上げます。

全国的に医師の偏在解消が課題となっていますが、当院の診療体制については、北海道医師養成確保修学資金制度による「地域枠」医師の配置により、呼吸器内科、皮膚科、産婦人科にそれぞれ1人増員し、加えて、新専門医制度における総合診療研修プログラムに



登録した当院研修医が総合内科に 1 人増員予定となっています。

また、初期臨床研修医については、1 年次はマッチングシステムで決定された当院基幹型 1 人のほか、旭川医科大学から協力型 3 人を採用する予定で、2 年次研修医と合わせて 12 人が当院で研鑽することとなります。

医師総数では減員となる診療科も一部ありますが、本年度同様の診療体制を確保できる見込みです。

次に、病院事業管理者の選任について申し上げます。

平成 28 年度に策定しました「新名寄市病院事業改革プラン」の重点項目である地方公営企業法全部適用への移行にあたり、新たな特別職として配置する病院事業管理者に、現病院長の和泉裕一氏を選任させていただくことを発表したところです。

和泉院長については、弾力的な病院経営に向けて、引き続き院長業務も継続していただくこととしています。

今後も道北第 3 次保健医療福祉圏の地方センター病院として、医療スタッフの人材確保に努めるとともに、圏域内の限られた医療資源を最大限に活用して、引き続き地域の病院や診療所と連携し、診療・看護体制の充実を図ってまいります。

## **子育て支援の推進**

次に、子育て支援の推進について申し上げます。

平成 29 年度新規事業の「認可外保育施設認可化等移行支援事業」については、本年度 1 所から小規模保育事業への認可化移行計画書の提出があり、補助金を支給し、移行支援を行いました。

今後も、さらなる子育て支援の充実に努めてまいります。

## **高齢者施策の推進**

次に、高齢者施策の推進について申し上げます。

介護予防普及啓発事業及び認知症高齢者見守り事業として、昨年 11 月 15 日に国立研究開発法人国立長寿医療研究センターの進藤由美氏を講師に迎え、「今からでも遅くない！認知症の予防！～もの忘れがひどくなったと思ったら～」と題して介護予防・認知症講演会を開催しました。

市民の皆様をはじめ 280 人の参加をいただき、運動と計算・しりとりを組み合わせた「コグニサイズ」を参加者全員で行い、講演を通して認知症をいかに予防するか、どのような工夫をすれば症状が抑えられるかについて学ぶ機会となりました。

また、講演会に合わせて「地域包括ケアシステム構築に向けた医療・介護専門職向け研修会」や「地域包括ケアシステム構築に向け

たワークショップ」を開催し、「どんな名寄だったら最後まで暮らし続けられるか～理想の名寄を語ろう～」をテーマに関係職員や高齢者・高齢者を支える市民などの参加をいただき、本市の地域包括ケアシステム構築に向け広く意見を聞くことができました。

次に、成年後見センターについて申し上げます。

認知症や知的障がい・精神障がいなどの理由から、十分な判断をすることができない方が、地域で安心して暮らすことができるよう、1月から名寄市社会福祉協議会に業務委託し、成年後見センター運営事業を開始いたしました。

これまでも市や関係機関において成年後見制度に係わる相談支援を実施してきましたが、今後は、成年後見センターを中核とし、関係機関との連携を進めるとともに、地域の権利擁護体制のより一層の充実に努めてまいります。

## **“自然と調和した環境にやさしく快適で安全安心なまちづくり”**

### **消防**

次に、消防事業について申し上げます。

平成29年中の火災件数は、8件で前年比4件の減となり、火災による負傷者が1人となっています。

火災種別では、建物火災 7 件、車両火災 1 件となっています。

救急出動件数は、1,099 件で前年比 33 件の増となり、事故種別では、急病 756 件、一般負傷 160 件、交通事故 59 件、転院搬送 75 件、そのほか 49 件となっています。

救助出動件数については、39 件で前年比 8 件の増となり、事故種別では、火災救助 1 件、交通救助 24 件、機械救助 1 件、水難救助 1 件、建物救助 1 件、そのほか 11 件となっています。

平成 29 年度の新規事業として、様々な救助事案に対応できる救助資機材・設備を積載した救助工作車が 2 月に導入されました。この車両は上川北部消防事務組合管内では初の導入となり、複雑・多様化する災害に迅速に対応し、これまで以上に市民の安心・安全を守る消防の使命を強固なものにできると期待しています。

予防行政については、住宅防火対策の推進として住宅用火災警報器の未設置世帯に対し、早期に設置することを一層促進するとともに、既存の住宅用火災警報器には、老朽化による機能劣化が懸念されることから、維持管理の啓発に努めてまいります。

また、住宅火災において、寝具類や衣類に着火して多くの死者が発生していることから防災品の普及推進を図ってまいります。

## **防災対策の充実**

次に、防災対策の充実について申し上げます。

地震対策では、本年度、地震による崩壊を想定した忠烈布貯水池及び西風連ダムに関する「ため池ハザードマップ」の作成を農村地域防災減災事業により実施しました。

今後は対象地区住民へハザードマップの配布を行うほか、市のホームページを活用し周知を行ってまいります。

水害対策では、昨年7月19日実施の「FIG-a なよろ課題を見つける避難訓練」、及び8月2日実施の「確実な避難のための防災セミナー」及び「なよろ夏休み防災科学スクール」の取組が評価され、総務省消防庁主催の「第22回防災まちづくり大賞」にて表彰されることとなりました。

今回の受賞により、本市の取組が全国に紹介されることから、地域防災力がより一層高まることを期待するとともに、自助共助の推進のため継続して取組を進めてまいります。

## **住宅の整備**

次に、住宅の整備について申し上げます。

北斗・新北斗団地建替事業では、昨年9月に着手した北斗団地の鉄筋コンクリート造2階建て1棟10戸の1月末現在の進捗率は約20パーセントとなっており、平成30年度建設分の実施設計については

昨年 8 月に着手し、本年 1 月に完了しています。

長寿命化型改善工事に伴う風舞団地の平成 30 年度改修分の実施設計については、昨年 7 月末に着手し、本年 1 月に完了しています。

また、名寄市住宅マスタープラン第 2 次策定業務については、昨年 6 月末に着手し、本年 3 月完了予定となっています。

### **上水道の整備**

次に、水道事業について申し上げます。

安全安心な水道水を安定供給するための配水管網整備工事については、風連東 4 号南線配水管網整備工事ほか 7 路線、延長 1,691 メートルが 1 月中旬に全路線完了しています。

また、川西浄水場における機械及び電気設備更新工事は 12 月下旬に完了しています。

### **下水道・個別排水の整備**

次に、下水道・個別排水事業について申し上げます。

本年度から 2 カ年で策定を予定している公共下水道ストックマネジメント計画について、本年度は長期的な改築シナリオのシミュレーション及び調査点検計画の策定を行っており、3 月上旬の完了を予定しています。

また、個別排水処理施設整備事業については、本年度 10 基の合併浄化槽の設置工事が完了しています。

## 道路の整備

次に、道路の整備について申し上げます。

社会資本整備総合交付金により整備を進めていた南 11 丁目右仲通その 2 工事については 1 月に工事を完了しています。

次に、市道の除排雪について申し上げます。

本年度の除排雪対策については、除雪延長 438 キロメートル、排雪延長 150 キロメートルを対象に進めており、排雪については、2 月 10 日に生活道路の作業を完了しています。幹線道路では、降雪状況に応じて継続的に対応してまいります。

また、本年度は平年より降雪が若干多い年となりましたが、委託による排雪では最大 4 班体制の排雪作業を進めており、道路センター職員による作業では、本年度導入した除雪機械などにより、交差点のカット排雪や道路の狭い箇所での拡幅作業、雪山崩しゆきやまくずなどの作業もあわせ、効果的な除排雪体制の確立を図ってまいりました。

引き続き、安全で安心な冬期間の道路交通網を確保するとともに、円滑な事業の推進に向けて努めてまいります。

## **地域公共交通**

次に、地域公共交通について申し上げます。

宗谷本線の維持・存続活動については、昨年 12 月 23 日に宗谷本線活性化推進協議会を開催し、事務担当者レベルで構成する幹事会がまとめた検討・分析の中間報告があり、北海道の経済・産業や道民の暮らしの安全・安心の基盤となる路線であることに鑑み、将来にわたって路線を持続的に維持していくための方策について、北海道とともに検討していくことが確認されました。引き続き、関係団体と連携し、議論を深めてまいります。

市内バス路線については、風連御料線の一部区間のデマンド化に向けて行っていた実証運行を 1 月 31 日に終了しました。今後は運行期間中に明らかとなった課題やアンケート調査などを通じた地域ニーズを踏まえ、運行プランの検討を行い本運行につなげてまいります。

また、そのほかの路線も含め、市内バス路線が利用しやすく効率的な公共交通となるよう、名寄市地域公共交通活性化協議会と連携し検討してまいります。

**“地域の特性を活かしたにぎわいと活力のあるまちづくり”**



## 農業・農村の振興

次に、農業・農村行政について申し上げます。

1月30日に市民文化センターで、名寄地域農業セミナーを開催し農産物の生産工程を管理する「GAP」の取組と、新たな農業共済制度となる「収入保険制度」についてそれぞれ講演を行い、生産者の皆さんが理解を深めることができました。

次に、米政策について申し上げます。

平成30年産の主食用米<sup>まい</sup>の生産については、需要に応じた生産を行えるようにするため、国による生産数量目標の配分が無くなり、これに代わって北海道農業再生協議会が需給見通しを踏まえ、生産の目安となる数量を示すこととなりました。目安となる数量としては、もち米<sup>ごめ</sup>が1万1,323トン、うるち米<sup>まい</sup>は1,675トン、合計で1万2,998トンと示されており、前年度と比べ153トン増加しています。

次に、有害鳥獣対策について申し上げます。

2月15日と16日に市内3カ所で、「アライグマ捕獲技術研修会」を開催し、捕獲に取り組む事が可能となる防除従事者登録の拡大を図りました。今後も捕獲体制の強化を図り農作物被害の防止に向けて取り組んでまいります。

次に、もち米<sup>ごめ</sup>文化の創生事業について申し上げます。

1月13日に駅前交流プラザ「よろーな」において、「2018 輝け！新春なよろもちつき大会」を開催しました。もち米生産日本一のまちとして、市民の皆様と一緒に「もちつき」や雑煮をふるまい、もち米文化の普及と本年の豊作を祈念しました。

### **森林保全と林業の振興**

次に、森林保全と林業の振興について申し上げます。

昨年11月、北海道は森林づくりの担い手を育成する機関として、「道立林業大学校」を平成32年度に開設する考えを示しました。

これを受けて道内各地域で誘致の動きがあり、上川北部地域においては、下川町、美深町、中川町、音威子府村、本市の5市町村で、「北海道立林業大学校上川北部地域誘致期成会」を設立し、2月7日に北海道へ林業大学校誘致の要望を行いました。

上川北部は森林資源などの研修フィールドに恵まれており、今後も5市町村が連携し、誘致に向けた取組を進めてまいります。

次に、名寄市森林整備計画について申し上げます。

名寄市森林整備計画は、森林整備のマスタープランとなる計画で、

5年ごとに今後10年間の森林整備のルールなどを策定することが「森林法」で定められています。

現在、平成30年度を初年度とする新計画の策定に向けて、関係機関、市内林業事業体、林業有識者との協議を経て、年度内の策定を目指します。

## **商工業の振興**

次に、商工業の振興について申し上げます。

北海道が実施している地域の景況などを調査した地域別経済動向調査によると、上川北部地域の昨年10月から12月の地域景況感は「横ばい」となっていますが、製造業・運輸業においては原油価格が上昇傾向にあることから収益低下が懸念されています。

個人消費動向についても回復の足踏み状態が予想され、今後においても全体的な景況の上向きは厳しい状況となっています。

市の融資関係では、12月末現在、経営資金、設備資金ともに融資件数は減少傾向で推移しており、経営資金については、融資件数で27件、融資額は1億799万円となり、前年比11件の減、金額では1億1,837万円の減となっています。また、設備資金については、融資件数で24件、融資額は1億9,139万円となり、前年比4件の減、金額では5,094万円の減となっています。

次に、名寄市住宅改修等推進事業について申し上げます。

本事業における 1 月末現在の交付決定件数は 223 件で、うち事業完了は 209 件、改修に要した費用の合計は約 3 億 3,234 万円となっており、年度途中ではありますが関連業種に対して大きな事業効果があったと考えています。降雪期に入ってから事業申請件数は減少傾向にありますが、引き続き本事業の登録施工事業者と連携を図り、新年度に向け本制度の周知を行なってまいります。

## **雇用の安定**

次に、労働関係について申し上げます。

ハローワーク名寄管内における 12 月末現在の月間有効求人倍率は 1.32 倍で、24 か月連続で前年同月を上回っており、依然として高い水準を維持しています。

今春の新規高等学校卒業予定者の状況については、管内卒業予定者 613 人のうち、就職希望者は 156 人で前年比 52 人の減、うち管内就職希望者は 81 人となっています。12 月末の就職内定者数は 136 人、就職内定率は 87.2 パーセントで前年同月比 3.7 パーセントの減となっています。一方、求人数では管内 284 人、道内 125 人、計 409 人となっており、求人と就職希望者の不均衡が大きくなっている状

況が続いています。

## **観光の振興**

次に、観光の振興について申し上げます。

名寄ピヤシリスキー場については、オープン直前に第4ロマンスリフトの動力機に不具合が見つかり、今シーズンの運行を休止したため、利用状況にその影響が心配されましたが、昨年12月9日にオープン以降稼働日数ベースでは前年を上回る利用があり、利用者の大きな混乱もなく営業できているところです。引き続き、安全で快適にご利用いただけるよう指定管理者とともに努力をしております。

冬の最大イベントである「なよろ雪質日本一フェスティバル」が2月10日から12日まで、「ふうれん冬まつり」が2月17日から18日まで開催され、多くの市民が会場を訪れて盛り上がりを見せました。

「なよろ雪質日本一フェスティバル」では国際雪像彫刻大会ジャパンカップに6カ国8チームと、韓国の学生を含めた学生3チームの計11チームが出場し、雪柱の彫刻で芸術性を競い合いました。また、おらの雪像みてくれコンクールも行われ、南広場を素晴らしい雪像が埋め尽くしました。ふうれん冬まつりでは、全日本長靴飛ばし選手権などが行われ、子どもから大人まで楽しい冬のひと時を過ごし

ました。

なお、本年はなよろ雪質日本一フェスティバルと同時開催で「北の天文字焼き」が行われ、天の文字が厳寒の夜空を美しく彩りました。

## **“生きる力と豊かな文化を育むまちづくり”**

### **小中学校教育の充実**

次に、学校教育について申し上げます。

確かな学力を育てる教育の推進については、2月6日に名寄庁舎を会場として第4回名寄市教育改善プロジェクト委員会を開催しました。教育経営の充実に関する研究グループ、教育研究の充実に関する研究グループ、教育指導の充実に関する研究グループの3つの研究グループの研究の成果と課題を協議するとともに、寿都町で開催された文部科学省採択「外国語教育強化地域拠点事業」公開研究会や千歳市で開催されました北海道道德教育推進校公開研究会への先進校視察について報告がなされました。

また、名寄中学校においては、校内の研究主題「高い感受性と自主性をもった生徒の育成」を目指した取組や道教委指定の「学校力向上に関する総合実践事業」、「ほっかいどう学力向上推進事業」における確かな学力や豊かな心を育む取組の成果が高い評価を得て、

平成 29 年度上川管内教育実践表彰の学校表彰の榮譽に輝きました。

豊かな心を育てる教育の推進については、1 月 23 日に市民文化センター E N - R A Y ホールにおいて、名寄市小・中学校の全教職員など 200 人の参加のもと、全国 W E B カウンセリング協議会理事長 やすかわまさし 安川雅史氏を招き講演会を開催し、不登校児童生徒への対応についての理解を深めました。

健やかな体を育てる教育の推進については、教育改善プロジェクト委員会の教育研究の充実に関する研究グループが全国体力・運動能力調査の結果を分析し、成果と課題を明らかにするなど、次年度に向けた授業改善のあり方などを検討しました。

食育の推進については、栄養教諭が学校からの要望を踏まえ、児童生徒が将来にわたり食に関する正しい知識や望ましい食習慣を身につけるため指導の充実に努めています。

また、卒業する中学校 3 年生を対象に本年度も献立のカラー写真を掲載した「かんたんお弁当レシピ」を配布し、栄養バランスの大切さについて啓発を行いました。

給食では、冬季の地場産物として寒締めほうれん草や越冬キャベツを給食に使用しています。また、例年 3 学期は児童生徒へのアンケートにより上位に入った献立を「アンコール献立」として提供し子どもたちに喜ばれています。今後も地産地消の推進と給食献立の

充実を図ってまいります。

特別支援教育の推進については、2月23日に市民文化センターにおいて、第3回名寄市特別支援連携協議会専門委員会を開催し、特別な支援を必要とする子どもへの就学前から学齢期、社会参加までの切れ目ない支援体制について協議を深めました。

また、名寄市特別支援教育専門家チームについては、本年度、幼稚園、小・中学校などに49件派遣し、障がいなどのある児童生徒への望ましい教育的対応について、専門的な立場から協議を行いました。

信頼される学校づくりの推進については、教育改善プロジェクト委員会の教育研究の充実に関する研究グループが中心となって、新しい学習指導要領についての啓発を行うため、保護者を対象とした道徳の教科化や外国語教育に関するリーフレットを作成し配布しています。

また、コミュニティ・スクール導入に向けた取組については、1月の名寄東小学校と風連中央小学校のそれぞれのコミュニティ・スクール推進委員会において、学校運営協議会の規則、人選方法、活動計画などを確認し、学校運営協議会を設置することを決定いたしました。今後は、4月上旬に第1回の学校運営協議会を開催いたします。



次に、安全安心な教育環境の整備について申し上げます。

風連中央小学校の校舎等の改築については、12月に降雪が続いた事と下請業者や作業員の不足などから、予定の工程から遅延状態にありますが、受注者の創意工夫のもと、品質管理に努めながら現在も冬期施工にて工事を継続しており、本年度の出来高を確保するものであります。

## **大学教育の充実**

次に、名寄市立大学並びに名寄市立大学短期大学部について申し上げます。

名寄市立大学では、平成28年度から3カ年事業として、地方創生推進交付金事業の採択を受けて、「地域ケア力向上プロジェクト」に取り組んでいます。

この事業は、圏域で不足している保育士などの専門職育成を図り、安全安心な地域社会、子育て・定住環境の充実に資することを目的としており、平成28年度は圏域の上川・留萌・宗谷管内の保育士・幼稚園教員を対象とした実態調査の実施、平成29年度以降は、各種研修会、講習会を開催し、専門職の資質向上やリカレント教育などを推進することとしています。

本年度は、これまで新規事業として保育士・幼稚園教員、小中学校教員を対象とした「特別支援教育コーディネーター養成セミナー」の開催や既存事業である「こどもセミナー」を活用した資質向上の取組を実施しました。

さらに本年 3 月には、公益社団法人北海道私立幼稚園協会と連携して、大学を会場に幼稚園教員免許状更新講習を実施するほか、リカレント教育のための研修会の開催を予定しており、来年度も同様の取組を進めてまいります。

次に、施設整備について申し上げます。

保健福祉学部再編事業に係る大学新棟については、本年 2 月 28 日に完成予定となっています。

新棟には、学生増に対応した実習室、演習室などのほか、食堂と売店が整備されます。現在、備品などの購入や食堂などの運営事業者との協議を進めており、4 月からの円滑なスタートに向けて準備を進めています。

また、地方創生拠点整備交付金事業の採択を受けて、整備を進めていた模擬保育室についても 12 月 25 日に完成しています。

今後、社会保育学科の講義のほか、地域の子育て支援や市内幼稚園、保育所などとの交流の場として有効に活用してまいります。

## 生涯学習社会の形成

次に、生涯学習社会の形成について申し上げます。

市民講座では、本年度、11回開催予定の地域とまちづくりを学ぶ「なよろ入門」を10回目まで終えたところです。この講座では、座学だけではなく、公共施設の見学や農業体験を取り入れ、地域の魅力や課題などについて多くのことを学びました。最終講座となる3月1日には1年間を振り返るグループ討論を行い、市民のまちづくりへの参画意識の高揚を図ってまいります。

次に、市立図書館について申し上げます。

12月1日に、駅前交流プラザ「よろーな」において、名寄市教育研究所との共催により「名寄市小中学校読書感想文コンクール表彰式」を行い、各小中学校から推薦された111人の作品の中から27人の入賞者を表彰いたしました。

12月12日から22日にかけては、北海道立文学館の地域連携事業を活用し「ほっかいどうの短歌」をテーマに文学パネル展を開催しました。この展示会は名寄市立大学との連携により、企画段階から大学生とともに準備を進めてきました。道内にゆかりのある歌人の作品のほか、大学生が詠んだ短歌も展示され、訪れた人の目を引き

ていました。

12月20日には、風連下多寄小学校で「学校ブックフェスティバル」を開催し、絵本の読み聞かせやブックトークの後に図書の貸出を行いました。児童は普段目にすることがないしかけ絵本と昔話や童話がかかれた「おはなし迷路」に目を輝かせていました。

子ども向けの行事としては、12月21日に風連分館で「冬のおはなし会」を行い51人の参加がありました。また12月27日には本館で「冬休みの工作」を行い12人の参加がありました。

次に、なよろ市立天文台について申し上げます。

11月23日に「熟睡プラ寝たりウム」を開催し90人の参加がありました。この企画は、星空を見ながら熟睡してもらおうという取組で、勤労感謝の日に全国各地で同時開催されており、子どもから大人まで普段とは違ったプラネタリウムを楽しみながら安らいでいただきました。

1月31日には「皆既月食観望会」を開催し、市内外から65人の参加がありました。皆既月食の時には、天候が回復し赤い月を楽しむことができました。この皆既月食の様子は、相互交流協定を結んでいる台湾の「台北市立天文科学教育館」とインターネットで相互配信を行いました。また、観望会の前段では「星と音楽の集い実行委

員会」が主催し、皆既月食プラネタリウムライブが行われました。

## **生涯スポーツの振興**

次に、スポーツの振興について申し上げます。

スポーツによる健康づくりについては、11月28日と29日に市民文化センターにおいて、日本スポーツ振興センターがスポーツ・運動と睡眠をテーマとして、スポーツへの参加促進と住民の健康的なライフスタイルの確立を目指した「アクティブ・フォー・スリープ事業」を開催しました。

また、小学校では阿部特別参与を中心に体育授業の中で児童の体力向上を目的とした「学校連携事業」にも取組ました。

主な冬季スポーツ大会については、12月16日に開催された名寄ピヤシリジャンプ大会を皮切りに、全日本コンバインド大会、全国高等学校スキー大会、全農日本カーリング選手権大会などが開催され、延べ千人を越える選手・監督・コーチが本市を訪れました。

なお、3月16日から開催されるJOCジュニアオリンピックカップのスキー大会については、「小学生クロスカントリー」の種目を新設し大会規模を拡大して開催する予定です。

ジュニア育成の取組については、12月7日から11日にかけて、フィンランド共和国のヴォカティスポーツからトレーニングディレク

ターのユルキ・ウオテラ氏を招き、第5回ジュニア育成コーチ養成プログラム2017などを開催しました。

また、12月9日には「名寄市ジュニアアスリート育成シンポジウム」を開催して、北京、ロンドン、リオデジャネイロ五輪において、3大会連続でメダルを獲得した競泳の松田丈志選手まつただけしを育てた、元日本代表コーチの久世由美子氏くぜゆみこを招き、ジュニア育成とまちづくりをテーマにしたご講演をいただき、参加者との意見交換を行いました。

スポーツ合宿の受入については、各種スキー大会の開催に合わせ直前合宿の選手や、ロシア連邦イルクーツクカーリング協会のジュニア選手など、国内外から多くの選手が訪れました。また、地元ジュニア選手との交流も行われました。

新たな取組として、慶応義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科の特任講師である富田欣和氏とみたよしかずを招き、世界と日本のスポーツビジネスの現状について講話をいただくとともに、市内視察や経済団体の皆様との情報交換などを通して、本市におけるスポーツ産業の可能性を探りました。

今月行われた平昌五輪の期間中には、名寄市でクロスカントリースキーシーンのロケが行われた、みずほフィナンシャルグループのテレビCMが放送されるなど、「冬季スポーツのまち名寄」としての機運はますます高まっているところであり、引き続き、冬季スポー

ツ拠点化に向けた取組を進めてまいります。

## 青少年の健全育成

次に、青少年の健全育成について申し上げます。

名寄市公民館では、12月26日に冬休み子ども料理教室を開催し、23人の児童の参加がありました。この講座では、名寄市立大学保健福祉学部栄養学科の講師と学生が子どもたちに料理を教えるとともに、試食をとおして交流を深めました。また、1月12日には新春子ども書き初め広場、2月6日から20日までは冬休み児童・生徒作品展を市民文化センターで開催しました。

1月7日には、平成30年名寄市成人式が新成人や翌年成人となる方により組織された実行委員会の主催により開催され、189人の新成人を迎えて人生の大きな節目を祝いました。成人を迎えた皆様には、社会を支える一員として、誇りと責任を持ち、さらには思いやりの気持ちを持って、未来を切り開く原動力となることを期待するところです。

2月18日には、名寄市子ども会育成連合会の設立10周年記念事業と家庭教育支援講座を兼ねて、フリーアナウンサーの渡辺陽子<sup>わたなべようこ</sup>さんを招き平成29年度名寄市子ども会育成指導者研修会・家庭教育支援講座を開催し、子育て世代を含む多くの市民に参加いただきました。

子ども会のリーダー育成事業「わくわく！体験交流会」は、昨年度までは年4回のプログラムでしたが、本年度はキャンプやカヌー、もちつき、ワカサギ釣りなど年8回にわたる幅広いジャンルの体験学習として実施しました。加えて、子ども会では文化・伝統交流事業として、この地域に古くから伝わる下の句かるたの体験会を8回開催し、1月27日に市民文化センターで開催した北海道子ども会かるた大会上川地区予選会に本市から小学生の部に2チームが参加してきました。

東京都杉並区との小学生名寄自然体験交流事業については、昨年12月26日から28日まで杉並区の小学生24人と引率者14人が本市を訪れる予定でしたが、猛吹雪に見舞われたため残念ながら中止となりました。しかしながらインターネットを利用して11月26日に事前交流を行い、2月3日には交流会を開催することができました。

次に、青少年センターについて申し上げます。

巡視活動については、青少年の健全育成と非行防止に向けて、冬休み期間中に一般巡視と名寄市児童生徒補導協議会との連携で特別巡視を行いました。

今後も、関係機関と連携しながら、青少年の問題行動の未然防止や指導に努めてまいります。



次に、放課後児童クラブについて申し上げます。

新1年生の保護者を対象に、小学校の1日入学に合わせて、放課後児童クラブについての説明会を開催しました。

今後も、就労されている保護者などが安心して預けることができ、児童にとって安全安心な居場所となるよう努めてまいります。

### **地域文化の継承と創造**

次に、地域文化の継承と創造について申し上げます。

2月25日に、市民文化センターE N - R A Yホールを会場に名寄市少年少女オーケストラ第1回記念定期演奏会が開催され、現在50人で活動する子どもたちの演奏を多くの市民が楽しみました。

次に、北国博物館について申し上げます。

1月13日から2月11日にかけて、特別展「名寄ゆかりの冬季五輪選手と国体メモリアル展」を開催し、冬季スポーツ拠点化事業推進の機運を高めました。

また、博物館リピーター確保事業の取組として、新規映像番組「名寄とスキー～世界へはばたけ未来のアスリート～」を制作し、特別展の開催に合わせ公開しました。映像番組は、館内で視聴してもら

うとともに、子どもたちに名寄とスキーの歴史を伝えたり、冬季スポーツ拠点化事業のPRに活用するため、市内小学校や公共施設などに配布しています。

以上、主な行政事項について、その概要を申し上げ報告といたします。